

CBB通信

2017年11月号

●はじめに

皆様、お世話になっております。

CBBは今年2017年2月に一般社団法人に移行しました。事業計画や各報告書を書いていく中で「ニュースレターがないではないか!」ということに気がきて、そして今回発行第2号を迎えます。

今月も、より現地のいまにフォーカスした月次報告をお届けできたらと思います。



●CBBスクールNOW

村の学校が始まり、生徒数の増減がありました。それに伴い、生徒が来る時間も変わりました。元々住み込みスタッフであった2人がCBBを離れるなど、たくさんの変化がありました。

●KDDIパソコン教室

レバノンの子供とSkype交流しました。



●住み込み成長記録

先月加わったチョアンという女の子がいましたが、彼女は住み込みスタッフではなくなってしまいました。代わりにやってきたのがスレイニーという女の子です。

男子では、ルオスという青年を加えて4人の住み込みスタッフで毎日過ごしていました。しかし、授業や勉強をしようとせずに遊びに行ったり、外出したりが増えていく日々。

女子たちが学校に行く時間が増え、CBBでの活動時間が減っていきました。ある日、男子2人がいなくなり、聞いた話によるとプノンペンに働きに行ったり。まず、住み込みスタッフ2人が離れました。

月末には、女子2人もCBBには住まず、家で寝ることにしたと告げ、離れていきました。先月から人が入れ替わったり、人がいなくなったりと激動の1か月でした。

現在、住み込みスタッフという制度をどうしていけば良いかを思考中です。



●大学進学・雇用創出プロジェクト



無事、3,4年生の6名(ソッチア、チャンナー、マウ、ラタナック、スレイリヤ、スレイニッチ)の授業料支払いを終えました(3年次のソムオンは1年休学)。



メコン大学の樋口先生はじめスポンサーの日本企業の方々、ありがとうございます。

●CBB Online School

「いつでも、どこでも、だれでも」をモットーにカンボジア人向けの日本語オンライン教育のパイオニアを目指しています。

が11月から新たな試みを始めました。一つは日本語教育の王道テキストである「みんなの日本語」の内容に沿った会話の授業。

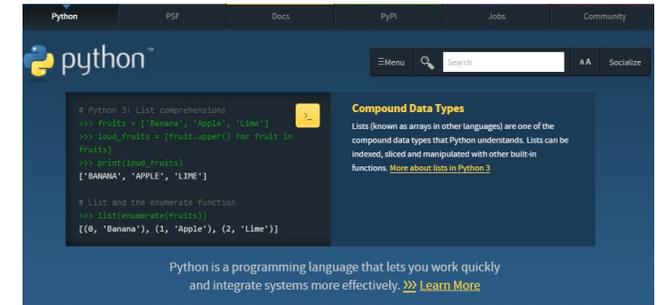
更に「クメール語教育」。小学生向けのこちらはかつて2014年ごろにアナログで挑戦していたもの。再挑戦ですね。



●理事の集い

富田理事は開発勉強のためIDEASに参加しています。IT関係の前(マエ)理事と進めていたプログラミングブートキャンプ。プノンペンの起業家や関係者から情報収集をしています。

PHPとRubyの需要が最もあるようですが、将来性を考えるとPython一択になりそうです。



最近ブートキャンプのためのリサーチの中でCBBオンラインスクールの改善案もどんどん浮かんでいい循環に入っています。

●事務局員たちの日々

フィンランドにいる地下智隆、ニューヨークにいる川崎公美子、東京の常岡晴恵、プノンペンの高橋昌祐樹と連携して、助成金提出や組織運営を続けています。

2018年3月には鹿児島県の学生を中心としたスタツアを企画しています。

●CBBとは？

一般社団法人CBBはカンボジアの教育支援、特にCBBスクールを通じた語学教育にフォーカスしています。

現地インターン、事務局インターン、それぞれ募集中です。 <http://cbb-cambodia.org/>